

神奈川県社協ホームページに掲載しますので、以下に助成事業の概要を分かりやすく、簡潔に記入してください。

組織・グループ名	ココロはずむアート展実行委員会
グループの属性・該当テーマ等	<ul style="list-style-type: none"> ●一般助成 ※いずれか1つに○をつける。 <li style="padding-left: 20px;">①セルフヘルプグループ・当事者団体等 ○②ボランティアグループ等 <li style="padding-left: 20px;">③市町村社会福祉協議会及びそれを構成員とする実行委員会等 ●協働モデル助成 ※本会の提示した該当テーマを記入 <p>[]</p>
助成事業名	ココロはずむアート展 PART11

助成事業の概要〔事業の目的・取組みの概要・成果や参加者の様子・今後の展望等〕※活動の様子が分かる画像を2枚程度挿入すること。

ココロはずむアート展は障害のある成人と児童が制作する、アート作品を展示します。今回12の事業所から106人の作家が絵画、刺繍、織、書、張りぼて等を出品しました。

展示会は9/8から1/23までの5カ月間を5会場で開催しました。緑区のカブカブ竹山、都筑区のカブカブ川和、青葉区のえだ福祉ホーム、緑区のアート屋わんど、青葉区のスペースナナを会場にして開催しました。コロナ感染の影響はありましたが、観客数は総数406人でした。

会場では、作品と並べて作家カードを掲示しています。会期中に、アートワークショップ「作家と一緒に制作しよう」、ココロはずむアート展報告会「作家を語る・作家が語る」を開催しました。どれも、作家の人柄を知って貰いたい、関心を持ち彼らと友だちになってもらいたい、との願いです。地元特養と作品の交換展示、子育て支援拠点での展示、横浜市役所の市民協働推進センターや十日市場郵便局にも依頼されて展示しました。それらは皆「ココロはずむアート展」の認知が広まった成果と感じられます。



今回も展示では、「これってアートなの？」というコーナーを設け、これまでのアートの枠に納まらない作品を展示しました。どんどんアートの既成概念を取り払い、



彼らの表現や発信に敏感でありたいと思います。障害のある彼ら自身が主役となる活動を今後も考えていきます。又、これまで参加が無かった重症心身障害者の表現、アート活動についても引き続き考えていきたいと思っています。



アートワークショップ会場